

屋久島の自然とともに育む、共生のかたち

NPO法人じゃがいものおうちは、障害のある人もない人も安心して暮らし続けられる場所をつくりたいという想いから1997年に設立されました。当時の屋久島には、障害者を受け入れる体制の整った場所が少なく、「それなら自分たちでつくろう」と障害のある子どもを持つ親たちが集い、じゃがいもの栽培を始めたことがきっかけです。今では、就労継続支援B型事業所①「にじいろの樹」や②「サロン湯の峯」、生活介護事業所③「みんなのおうち」の運営など多岐にわたる事業を通して、利用者が地域の中で働き、役割を持って暮らせる場づくりに取り組んでいます。

①「にじいろの樹」では、(栽培期間中)無農薬栽培の農産物のほか、島の素材にこだわった加工品の製造・販売を行っています。中でも、じゃがいもや豆腐(よかたん豆腐)は、島内西部地区の小・中学校の給食にも使われるなど人気となっています。

2025年11月には、より安定した生産体制の実現のため、

NPO法人 じゃがいものおうち



③「みんなのおうち」利用者とスタッフの皆さん。



①新設した製塩所には、海水を炊くための石造りの釜を設置



①「にじいろの樹」で「一つひとつ丁寧に作りあげるよかたん豆腐」は、屋久島の水、九州産大豆を使用



②カフェメニューは、よかたん豆腐を使用したスイーツを初め、体に優しいメニューが豊富



②「サロン湯の峯」では、「にじいろの樹」の製品以外にも、採れたての野菜やリユース品などを販売



②「サロン湯の峯」の店名にちなんで、トトロなデザインが目立ちく外観

製粉所・製塩所を新設しました。製粉所では、自分で栽培した麦を小麦粉に加工し、お菓子等の原料としているほか、製塩所では、利用者がくみ上げた海水を釜で煮詰めて塩を製造していく予定です。

代表の楠篤雄(たけあつお)さんは、「製造した商品の人気の声が利用者の大きなやりがいとなっているようです。また、小麦粉や塩の製造は、利用者が集中して取り組める作業が中心となり、工賃向上にもつながればと話します。

②「サロン湯の峯」では、「にじいろの樹」の商品販売やカフェ営業を行い、地域の人や観光客が集う交流の場となっています。店内では、オリジナル商品を使用したカフェメニューも豊富。運営を担う傘木風子(かきまづこ)さんは、「人気のスイーツは、豆乳ソフトクリーム。このサロンを利用者と地域の方々がお互いを理解し合う場になりたいです」と笑顔で話してくれました。

③「みんなのおうち」では、現在9名の利用者の生活支援を行いながらそれぞれの特性に合わせた作業活動も行っています。代表の楠さんは、「生活を送るだけでなく、一人ひとりが『できる作業』を見つけ、充実感を得られる場所を目指しています。最近では、視覚に障害のある方が手でちぎった月桃の葉で、入浴剤を作り、商品化に繋がりました」と嬉しそうに話します。続けて、「利用者や支援者の高齢化も見据えながら、障害の有無に関わらず、地域で最後まで暮らし続けられる仕組みづくりが目標です。私たちの願いは、ここが屋久島の自然とともに、誰もが役割を持って生きられる場所であり続けることだと話してくれました。

NPO法人 じゃがいものおうち

〒891-4404 熊毛郡屋久島町尾之間136-6
TEL&FAX:0997-47-3588

じゃがいものおうち 検索

